

デジタルで地方革新

台湾担当相と意見交換

県内若手経営者、学生ら

県は17日、台湾のデジタル担当大臣、オードリー・

タン(唐鳳)さんとオンラインの意見交換会を県庁で開いた。県内の若手経営者や高校生、大学生ら約20人が参加。今後のデジタル社会

の姿と地方におけるイノベーションの可能性」をテーマに若者らが熱心に質問をぶつけ、タンさんが描く未来像に刺激を受けていた。

本県の将来像を示す次期「長期ビジョン」にタンさんの知見を生かそうと企画。河野知事や県庁の若手職員らも参加した。

冒頭の講演でタンさんは、新型コロナウイルス対策で人との接触状況を追え

るシステムをつくる際、スマートフォン

のアプリを使い慣れていない高齢者が携帯電話、紙のやりとりでも使える仕様にしたと説明。

「使い慣れた物を取り上げるのではなく、インクルーシブな(分け隔てない)イノベーションが必要。新しいデジタル化を進める際には、人々をつなげるようにするべきだ」と説いた。

若者らは「どうすれば中小企業や高齢者にデジタルの利点を説明できるか」「高齢者が多い地方で若者が取り組むべきことは」などと質問した。タンさんは

若者を講師として派遣し、

地方の高齢者らにデジタル機器やアプリの使い方を学んでもらう台湾の取り組みを紹介。「デジタル化に取り組むときには高齢者にもチームに入ってもらい、共に時間を過ごして考えを聞いてみて」と助言した。

参加した宮崎大3年の河野誠也さん(21)は「台湾での課題は日本にも通ずるものがあり、とても刺激になった。デジタルを活用した地域活性化に挑戦していきたい」と話していた。

(牧佳乃子)

★「プレみや」にも掲載



オードリー・タンさんと画面越しに記念撮影する意見交換会の参加者ら＝17日午後、県庁講堂(木上友貴撮影)